




博士論文審査結果報告書

平成28年7月20日

論文提出者	論文審査担当者
専攻領域 リハビリテーション科学領域	審査委員（主査） 備酒 伸彦 
専攻分野 神経・運動機能リハビリテーション学	審査委員（副査） 村尾 浩 
氏名 尾寄 遠見	審査委員（副査） 古田 恒輔 
論文題目 Caregiver burden and fatigue in caregivers of people with dementia: Measuring human herpesvirus (HHV)-6 and -7 DNA levels in saliva	
<p>審査結果</p> <p>論文提出者は、認知症者を介護する家族の疲労度を評価する方法として、唾液中のヒトヘルペスウイルス（human herpesvirus;HHV-6,HHV-7）を用いることの妥当性を検討した。</p> <p>44名の介護当事者と、同年代で同エリアに居住する非介護者50名を対象に、①唾液中のHHV-6、HHV-7DNA量をPCR法により測定するとともに、②Chalder Fatigue Scale(CFS)を用いて主観的疲労感、③Center for Epidemiologic Studies-Depression Scale(CES-D)により抑鬱症状を、④Physical Activity Scale for the Elderly(PASE)により余暇・家事・仕事関連の身体活動量を評価した。また、介護当事者に対してはこれらに加えて、⑤ZBIにより介護負担感を評価し、被介護者に対しては⑥Mini-Mental Scale (MMSE) による認知機能障害評価、⑦Assessment of Motor and Process Skills(AMPS)による認知症者のADL/IADL評価、⑧Dementia Behavior Disturbance Scale(DBD)による認知症者の行動障害評価を実施した。</p> <p>この結果、介護当事者群のHHV-6DNA量は、非介護者群に対し有意な高値を示した。また、介護当事者群のHHV-6DNA量は、被介護者のMMSEおよびAMPSの運動能力と有意な正の相関を示し、CES-Dと有意な負の相関を示した。</p> <p>これらのことから、論文提出者は唾液中のHHV-6が介護による疲労を表す新たなバイオマーカーになることを示した。これにより、介護者の疲労度や、介入による疲労への影響などを客観的に見るものの可能性を示した。また、潜在的な疲労を発見するにも有効な指標が示された。</p> <p>以上の通り提出された論文は価値ある業績であると評価できる。よって、論文提出者は、博士の学位を得る資格があると認める。</p>	

審査委員（主査）署名

